

VII 昆虫（渡邊 忠雄、片山 栄助、松村 雄、佐藤 光一、渡辺 剛、多和田 潤治）

1. カゲロウ目

現地調査では、松村雄氏の御協力をいただいた。また、とちぎ昆虫愛好会会員の小林教太氏には同定の労を賜った。心より感謝申し上げます。

(1) カゲロウ目の生息状況

栃木県内からは、櫻井（2003）により未確定の9種を含む10科70種のカゲロウ類が記録されている。

本調査では文献調査を含め、未確定種を除く5科10種が確認された。このうち、文献記録のみの種が4科9種である（表VII-1-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産カゲロウ類のうち、約14%の生息が記録されたことになる。かなり低い数値であり、極めて不十分な結果となった。

この一群は、極めて古い時代から地球上に出現した昆虫類である。全ての種が幼虫期を水中で過ごし、成虫は陸上生活をするのが知られている。

石綿・竹門（2005）によれば、日本産で幼虫と成虫の関係が明らかになっているのは、140種中の約90種であると述べている。また、分類については新知見の集積により、変化しているのが現状であるとしている

近隣地区の状況を勘案すると、追加記録される可能性が高い種類が相当数ある。今後は成虫を試料とした、綿密な調査が望まれる。

【表VII-1-(1)-1 カゲロウ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
チラカゲロウ科	1	1	
ヒラタカゲロウ科	2		(2)
コカゲロウ科	1		(1)
マダラカゲロウ科	5		(5)
モンカゲロウ科	1		(1)
計	5科 10種	1種	(9)種

※科の分類と配列は櫻井（2003）に準じた。

調査地内では塩原地区の山地帯の河川・溪流から記録されている。

チラカゲロウ科のチラカゲロウは、河川の上流から下流まで広い水域に分布する。現地調査では三区町から、成虫が確認されている。

キイロヒラタカゲロウ・エルモンヒラタカゲロウの属するヒラタカゲロウ科の仲間は、そのほとんどが流れの速い川底に生息する。

コカゲロウ科のシロハラコカゲロウは、成虫が早春及び晩秋に出現する比較的大型のカゲロウで、幼虫は川底・水中の石の表面や植物類の表面から藻類を摂食するとされる。

ヨシノマダラカゲロウ・クロマダラカゲロウなどマダラカゲロウ科の仲間は、幼虫の体が幾分扁平で、頑強な造りをしている。この科に共通な性質として、産卵前のメスは瀬の上空に集まり、メスだけで群飛の様相を呈するとされる。

モンカゲロウ科のフタスジモンカゲロウは、丘陵地から山地の河川上流部に普通に産する。

(2) 保全すべき種

保全すべき種に該当する確認種はなかった。しかし、カゲロウ類は河川環境の指標種として重要な位置を占めている。この点には十分留意していただきたい。

(3) 注目すべき種

注目すべき種に該当する確認種はなかった。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、科・種の配列、和名・学名に関しては、櫻井（2003）に準じた。

※確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果及び文献記録から引用した。

※櫻井（2003）は、加藤（1978）からの引用で、「(月山) 塩原町」(現、那須塩原市)を各種の産地として挙げている。しかし、当調査は今市市管内(現、日光市)で実施されたものである。このため、ここでは該当するデータを、全て除外した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
カゲロウ目						
チラカゲロウ科	チラカゲロウ	<i>Isonychia japonica</i> Ulmer		○		
ヒラタカゲロウ科	キイロヒラタカゲロウ	<i>Epeorus aesuculus</i> Imanishi				□*1
	エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i> Ueno	□*1			
コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i> Ueno				□*1
マダラカゲロウ科	ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella (Ephemerella) cryptomeria</i> Imanishi	□*1			
	クロマダラカゲロウ	<i>Cincticostella nigra</i> Ueno				□*1
	ホソバマダラカゲロウ	<i>Ephemerella denticula</i> Allen				□*1
	クシゲマダラカゲロウ	<i>Serratella setigera</i> Bajkova				□*1
	アカマダラカゲロウ	<i>Serratella rufa</i> (Imanishi)	□*1			
モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i> MacLachlan	□*1			

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

石綿進一・竹門康弘，2005．カゲロウ目 Ephemeroptera．日本産水生昆虫一科・属・種への検索．東海大学出版会，pp. 31-128．

環境省，2007．昆虫類レッドリスト．絶滅危惧種情報，環境省ホームページ．

加藤仁，1978．月山周辺の昆虫について．今市地点自然環境の現状調査並びに影響評価報告書．東京電力株式会社，pp. 5-24．

加藤仁，1998．3) 黒磯市のカゲロウ相．黒磯市動植物実態調査研究会(編)．黒磯市動植物実態調査報告書．黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 418-419．

櫻井正美，2003．カゲロウ目 Ephemeroptera．栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫 I．栃木県林務部自然環境課，pp. 77-90．*1

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005．レッドデータブックとちぎ．栃木県，898pp．